

## 令和4年度 公開森林実習について

循環型森林管理技術分野 助教 高田乃倫予

2020年度以降、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から宿泊を伴う実習を中止とし、日帰りの実習のみを実施してきました。今年度は、新型コロナウイルス感染防止対策を十分に検討した上で、宿泊実習を再開することとなりました。

宿泊実習である公開森林実習については、3年ぶりに対面での実施となりました。実習は4泊5日の期間で行われます。

「冷温帯林と持続的森林・林業」（8月22日～8月26日）では4名（宇都宮大学1名、大正大学1名、日本大学1名、福島大学1名）、「森林インターンシップ」（8月29日～9月2日）では4名（日本大学3名、山形大学1名）の学生を迎えました。

「冷温帯林と持続的森林・林業」は、鹿児島大学「温帯林概論」と共に行う実習でもあります。昨年度からプログラムを一新し、対面での実施は初めてとなりました。プログラムは、本学演習林のみならず県内の様々な場所を見学し、岩手の森林生態や林業だけでなく、縄文時代からの歴史や伝統文化、震災後の復興と森林再生について学ぶ内容となっています。

「森林インターンシップ」は、本学の技術系専門職員に指導を受けながら、林業の体験をするプログラムとなっています。御明神演習林の植生も学びつつ、主に滝沢演習林で林業の実務を経験します。

両実習では滝沢農場も見学し、森林・林業だけでなく農業についても知る機会を設けています。

実施期間中は、大雨になることも多く、天候には恵まれたとは言えませんが、両実習で新型コロナウイルス感染者が出ることもなく、無事に終えることができました。

今年度は、特に実習が参加学生にとって交友を深める場にもなり、「楽しかった」という声を耳にすることが多かったように思われます。



森林インターンシップ 滝沢演習林でのチェーンソーワーク

## 第3回 大学農場で体験する食と農と生物学

持続型農業生産技術分野 助教 渡邊 学



水稻の3要素肥料試験区を観察

昨年に引き続き、「第3回 大学農場で体験する食と農と生物学」を7月27日（水）に開催しました。本公開講座は、フィールド実習教育の体験を通し、生きるために欠くことのできない食と、それを支える農に対する理解を深める場を提供することを目的としています。

参加者は、高校生18名（内訳：岩手県16名、宮城県1名、東京都1名）で、2年生が最多でした。今年度は、対面でのオープンキャンパスを開催する大学が増えたためか、昨年度よりも申し込み数が少なくなりました。

午前中、自己紹介の後、農場内を見学し、クッキングトマト「すずこま」を収穫しました。休憩を挟み、ブルーベリーを収穫しながら品種ごとに食べ比べしました。昼食後、農場所属学生（修士2年生1名、修士1年生1名、学部4年生4名）による1分間研究紹介を実施しました。その

後、由比教員と渡邊がそれぞれ野菜と果樹について講義しました。最後に、ブルーベリーのジャム作りを体験しました。参加者は、クッキングトマトとブルーベリー、ブルーベリージャムをお土産に持ち帰りました。

終了後の独自のアンケート（大変満足～大変不満の5択）では、16名が「大変満足」、2名が「まあまあ満足」を選択していました。参加者にとって、初めて見るもの、初めて体験することが多かったようで、自由記述の感想では、「有意義な体験をできた。」という内容が多くみられました。特に、体験ごとに参加者が質問できる時間を多く設けたことが高く評価されていました。参加者が疑問に思ったことをすぐに質問できる点が良かったようです。第1回目、第2回目と同様、所属学生による研究紹介も好評でした。また、ブルーベリーの品種ごとの食べ比べに興味を持った参加者も多くみられました。「ここで授業を受けたいと思った。」などの進路選択に関する感想も多くあり、岩手大学農学部をアピールする良い機会になったと感じました。

## 御明神演習林に LPWA 無線システムを導入

循環型森林管理技術分野 助教 白旗 学

御明神演習林は、多くの場所が携帯電話のエリア外になっています。そのため、林内の連絡手段として、簡易無線のトランシーバーを利用してきましたが、地形の影響により、電波が届くエリアが限られるなど問題が残されていました。

そこで、演習林全域をカバーできる通信システムとして、今回新たにLPWA (Low Power Wide Area: 低消費電力で遠距離通信) 通信システムを導入しました。演習林最高地点 (682m) の方丈山頂および他1か所に中継器 (ソーラーパネル駆動) を設置したことで、演習林奥地もカバーする通信が可能になりました。本システムでは、音声データは使用できませんが、子機 (5台) にはGPSが搭載され、定期的に位置情報を発信するとともに、緊急の際はボタンを押すことで親機 (御明神総合庁舎に設置) ・全子機にアラーム通知が届きます。また、スマートフォン等とBluetooth接続することで文字によるチャット・相手の位置確認ができます。親機は、LTE通信 (いわゆる携帯電話通信網) と接続されており、インターネットを経由してPC等で位置の確認や情報のやり取りもできます。まだ運用開始したばかりで安定した運用はこれからですが、林内作業や研究調査等の安全のため、役立てていきたいと考えています。



中継機(方丈山頂)と子機

## 「横田清先生顕彰の碑」 建立

持続型農業生産技術分野 助教 渡邊 学

故横田清先生は岩手大学農学部果樹園芸学研究室および滝沢農場で教育研究に携わり、リンゴ「はるか」を育成され、ブルーベリーの普及活動にご尽力されました。論文を書くことよりも技術開発を重視された横田先生の成果は、多くの生産者の所得向上に貢献し、現在も生産者に夢と希望を与え続けています。

2020年3月14日に横田先生が逝去されたあと、横田先生が岩手大学に赴任された頃の教え子たちが中心になり、横田先生に感謝するとともに生前の業績を永く記憶にとどめるため「横田先生顕彰の碑」を建立することになりました。建立にかかる費用は、主旨に賛同くださった多くの方々からご協力いただきました。顕彰碑の建立場所は、最後の勤務地である滝沢農場の正門から管理棟へ通ずる直線道路の南側で旧用水池の畔です (写真1、写真2)。顕彰碑からはブルーベリーとリンゴ「はるか」、岩手山を望むことができます。

2022年3月13日に新型コロナウイルスの影響により延期されていた横田先生のお別れ会が開催され、同日に「横田先生顕彰の碑」の除幕式が執り行われました。横田先生のご遺族と果樹園芸学研究室卒業生やブルーベリーとリンゴ「はるか」などで横田先生とご親交の深かった方々が、遠くは滋賀県からお集まりくださいました。みぞれ混じりの冷たい雨が降る生憎の天候でしたが、多くの参加者が見守る中、横田先生のご息女森美穂様、岩手大学農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター長由比進氏、「横田清先生顕彰の碑を建立する会」代表佐々木仁氏と渡邊が除幕しました。今後、この碑を前にして、農学部や農場を見学される方々に横田先生の実学を重視した精神を語り伝えていこうと心に強く思いました。



写真1 / 横田清先生顕彰の碑

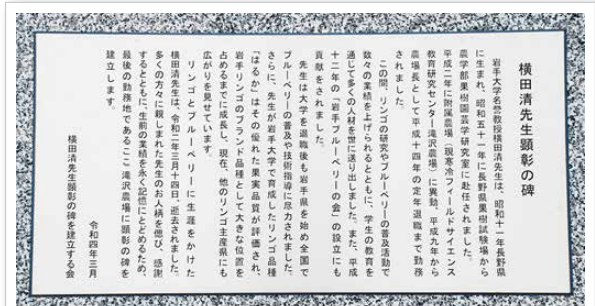


写真2 / 碑文